

2018年1月29日

<報道発表資料>

株式会社ウェザーニューズ
KDDI 株式会社

気象予測と作業現場の気象情報を組み合わせた 安全管理ソリューションの実証実験を開始 ～IoTを活用してゲリラ豪雨や雷から屋外作業者の安全を守る取り組み～

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉県千葉市、代表取締役社長：草開 千仁、以下 ウェザーニューズ）、KDDI 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：田中 孝司、以下 KDDI）は、2018年3月より、1km メッシュの気象予測モデルと作業現場の気象情報を組み合わせた実証実験を開始します。

また、今後、今回の実証実験の結果を活かして屋外作業現場向け安全管理ソリューションサービスの提供を目指します。

近年、1時間降水量 50mm 以上のゲリラ豪雨は増加傾向（注）にあり、竜巻、雷などを含めた天候の急変から屋外作業者の安全を守ることは大きな課題となっています。

今回の実証実験では、5分ごとに更新される 1km メッシュの超局地的気象予測モデルと、屋外作業責任者が携行する気象センサーにより取得する気象情報を組み合わせることにより、作業現場単位で、事前にゲリラ豪雨や雷などの情報を気象アラートとしてスマートフォンへリアルタイムに配信することが可能となります。

気象センサーは、小型・軽量で簡単に持ち運ぶことができるため、頻繁に作業現場が変更になる場合でもその場の気象情報を取得することができます。

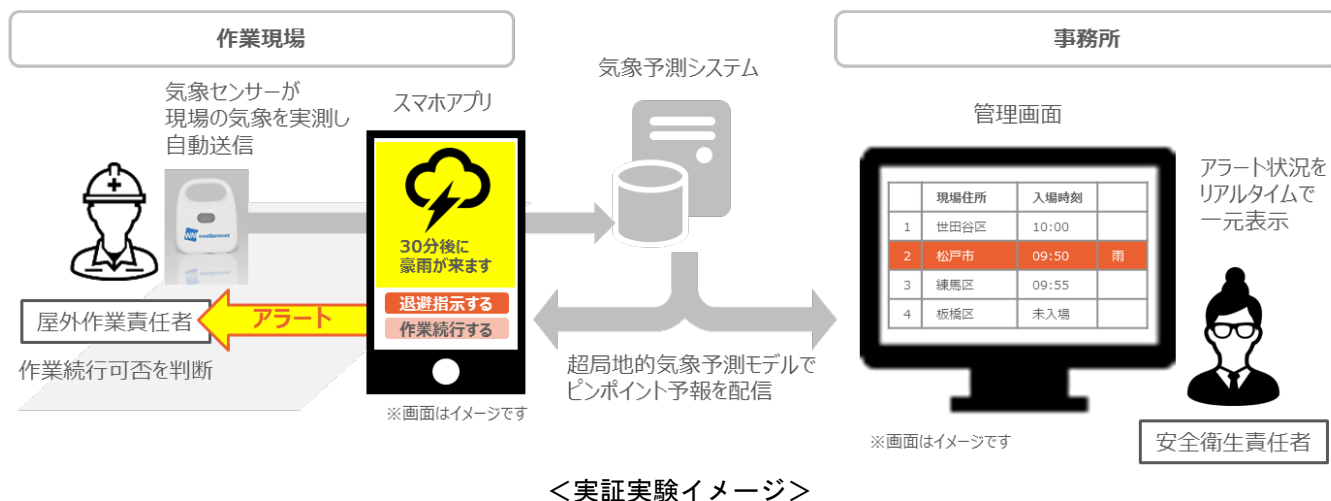


<気象センサー>

本プレスリリースの素材ダウンロードはこちら

ウェザーニューズウェブ版プレスリリース「KDDI×ウェザーニューズ IoT 気象実証実験を開始」
<https://jp.weathernews.com/news/21548/>

また、各作業現場における作業者の入場状況や気象アラートが可視化された管理画面を提供することで、複数の現場を管理する安全衛生責任者は、作業現場の気象状況を一元的に把握することが可能となります。



KDDI は、IoT 基盤を活用した気象アラートを発信する仕組みと、安全衛生責任者向け管理画面を提供します。ウェザーニューズは、超局地的気象予測モデルの提供ならびに、屋外作業責任者向けスマートフォンアプリと気象センサーを提供します。

また、株式会社メディアクリエイトコミュニケーションズ（本社：東京都千代田区、代表取締役：久保田 一史）の協力のもと、実際の屋外や高所での作業における実証実験の有効性の検証や、安全管理ソリューションサービスの提供に向けた機能改善への知見を収集していきます。

なお、ウェザーニューズは、今回の実証実験でも活用する気象予測モデルを API として、「KDDI IoT クラウド API Market」に提供し、多様な分野における気象情報の活用を推進していきます。

「KDDI IoT クラウド API Market」の提供を開始

(<http://news.kddi.com/kddi/corporate/newsrelease/2018/01/29/2915.html>)

(注) 気象庁「アメダスで見た短時間強雨発生回数の長期変化について」より

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/heavyraintrend.html>

以 上